

「4年生の〇、〇、〇が、今日は全学年の傘を揃えていたそうです。毎日にではないですが、時々数人がそろえているらしいです。Happy なお話でした」と私の机の上にメモが置かれていた▼これが勇気の連鎖の泉だったのかな？さっそく、3人の子に校長室に来てもらって話を聞くことにした。以下、子どもの言葉「学校をきれいにしたいなと思って」「やろーってやった」「人目につかないようにやった」「気持ちよかった」▼「それはね、チョボラって言うんだよ。ちょこっとボランティア。ありがとう。傘が整頓されているのに気がつき、一人ひとりが意識できると素敵だね」「そうやって素敵が広がることを勇気の連鎖って言うんだよ」▼話のおわりに、「実は、6年生も勇気の連鎖に取り組んでくれているんだよ」とそっと教えた。もちろん、なんのこともわからない▼勇気の連鎖は「きまりにせず、少しずつ広がる（涵養）」こと。それに加えて、チョボラから始まるということに、4年生の子が気づかせてくれた▼朝、外遊びから帰ってくる子が、「今日の指数は、ぎりぎりやった」と声をかけてくれた。自分たちで意識できるようになることは、自分の命を自分で守ることにつながる▼結果だけを求めれば、「ルール」にしてしまう。そのうちいくつかは、大人の都合だったりもする。学校は大人の都合に負けない自分の頭で考える子を育てる。